

令和 6 年 5 月 28 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K10630

研究課題名(和文) アートの力を行動医学教育へ：演劇・インプロを活用した医療者教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of Education Program for Healthcare Professionals with Theatre and Improvisation

研究代表者

岡崎 研太郎 (Okazaki, Kentaro)

九州大学・医学研究院・助教

研究者番号：90450882

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：コミュニケーション能力の涵養に焦点を合わせ、インプロ(即興演劇)を用いた医療系学生向けプログラムを開発した。このプログラムを、選択必修科目「コミュニケーション入門」として開講し、インプロに造詣の深い教育学の教員とインプロ経験のある医学教育教員が協働して実施することができた。受講した医学部生の満足度は高く、自分自身の「コミュニケーション力」、「共感力」、「ウェルビーイング」、「チームビルディング力」、「リーダーシップ力」を高めるのに役立つという回答が多数を占めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで、インプロ(即興演劇)を用いた医療系学生教育の実践は、ほとんどが北米からの報告に限られていた。しかし、本研究により、日本でも同様の実践が可能であり、受講した学生に対して遜色ない効果を与えることが明らかになった。今後、同様のプログラムを広く実施していくことで、臨床現場でのコミュニケーションスキルが向上した医療系学生が増加し、患者にもメリットとなることが期待される。

研究成果の概要(英文)：Focusing on the cultivation of communication skills, we developed a program for medical students using improvisational theater. This program was offered as a required elective course, "Introduction to Communication," and was implemented in collaboration with education faculty members who are familiar with improvisation and medical education faculty members who have experience in improvisation. The medical students who took the course were highly satisfied with the program, and the majority of them indicated that it helped them improve their own communication, "empathy," "well-being," "team building," and "leadership skills."

研究分野：医学教育、行動医学、演劇、糖尿病、地域医療

キーワード：インプロ(即興演劇) 医学教育 演劇 コミュニケーション

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 医療系教育のトレンド：体験型学習の重要性と行動医学分野の教育

我が国の医学部卒前教育においては、国際基準を踏まえたカリキュラム整備の一環として講義型プログラムを減らし、臨床実習(双方向の学びが発生しうる体験型学習プログラム)の時間を増やそうという動きが生じている。こうした変化の中で、コミュニケーションや共感を含む行動医学の重要性が再認識されている。しかし、これらは従来型の講義との相性がよいとは言い難い。「わかっているけれどもできない」というように、知識としての理解と、実際の臨床現場における行動の解離が問題となるからである。また、看護教育においても、高齢化の進展や在宅患者の増加に伴う患者像の複雑化・多様化に対応した教育が急務とされている。看護師が患者に共感的にかかわることは患者が人生の意味を見つけ希望を持つことと関係する(Myhrvold, 2003)とされ、看護師は共感を通して患者の体験を推測すること(Kirk, 2007)が必要になる。このため、医療者、とりわけ看護師には、患者と上手にコミュニケーションを取り、患者の話に共感し、患者の不安を軽減し、望ましい健康行動へとつなげていくスキルを習得することが必要となってくる。

(2) 行動医学(コミュニケーション力や共感力)を学ぶしくみとしてのインプロを用いた授業

行動医学を習得する体験型学習法の一つにインプロが挙げられる。これは英語 "improvisation" の略語で即興を意味し、演劇や音楽などアートの分野で表現手法として創作のプロセスとして用いられている(絹川, 2002)。即興演劇としてのインプロは、俳優の演技力向上を目的とするだけでなく、応用インプロとして幼児初等教育等でも活用されてきた。近年、諸外国ではMITやStanfordなどのビジネススクールでも導入例があり、看護学生や医学生への卒前教育、多職種連携教育としての実施報告も増えている(Watson, 2016)。米国の家庭医かつ医学教育者のBelinda Fuらは、主として家庭医学の領域において、医学生、研修医、指導医らにインプロを用いたワークショップを開催し、コミュニケーション能力や多職種連携、プロフェッショナルリズムの涵養などに効果があることを示している(Fu, 2019)。

2. 研究の目的

本研究の目的は、演劇・インプロを活用した行動医学分野の医療系学生教育のプログラムを開発し、その効果を検証することとした。

3. 研究の方法

(1) プログラム開発

多職種連携教育やワークショップ、演劇やインプロに造詣の深い医師、看護師、薬剤師、演劇人らが協働し、医療系学生を対象とした教育プログラムを開発する。

(2) プログラムの実施

医療系学生を対象に、開発したプログラムを実施する。

(3) プログラム評価

プログラムを受講した医療系学生を対象に質問紙調査を実施し、プログラムの効果を測定する。

4. 研究成果

2020年からのCovid-19 pandemicの影響を受け、各大学の授業は従来の対面式授業が激減し、オンラインでの非対面式授業が主体となった。医療系学部も例外ではなく、ごく一部の実習を除き、ほとんどがオンラインでの非対面式授業に変更された。このため、当初予定していたA大学看護学部をフィールドとした調査は中止せざるを得ず、研究の進捗に多大な影響があった。

(1) 応用インプロを用いた医療者教育プログラムの指導者養成ワークショップへの参加

2022年6月に米国シカゴのノースウェスタン大学医学部で開催された5日間のTrain-the-Trainer Workshop(応用インプロを用いた医療者教育プログラムの指導者養成ワークショップ)に参加することができた。医学部教員や演劇人からなる講師から、医療系学生を対象としてインプロを用いた授業をおこなう際の目的やカリキュラム作成、フィードバックの方法を具体的に学ぶとともに、最終日には参加者とペアになって模擬授業をおこなう機会を得た。

(2) 九州大学でのインプロを用いた授業の開講：選択必修科目「コミュニケーション入門」

九州大学医学部医学科2年生を対象に、インプロを用いた授業「コミュニケーション入門」を開講した。この授業は選択必修となっており、15人が履修登録をし、14人が参加した。

【開催スケジュール】

連続した4週の金曜日午後、各日90分×2コマで開催した。

【プログラムの特徴】

インプロの実践家と医学部教員が協働して授業を実施した。インプロのエクササイズを体験した後に、インプロの実践家が各エクササイズの目的を説明した。さらに、医療現場との関連性について医学部教員が解説を加えた。

【各日の授業テーマと、実施したインプロエクササイズの題名】

第一日：イントロダクション

- ・拍手回し
- ・リア・ハンド・ホップラ
- ・ハッピーゲーム
- ・ナイフとフォーク
- ・椅子取りゲーム
- ・トルソー
- ・ステータス
- ・No / Yes, but.../ Yes, and
- ・私は木です

第二日：ストーリーテリングとキャラクター

- ・コロンビアの魔女
- ・サンキューゲーム
- ・しりとり
- ・連想ゲーム
- ・ワンワード
- ・ストーリースパイン
- ・Tilt
- ・解決社長

第三日：心理的安全性とリーダーシップ、ステージに立ってインプロしてみる

- ・ザブン・バン・ポヨヨン
- ・パイレーツ&エレファント&プリンセス
- ・背中合わせで立つ
- ・21 カウントアップ
- ・Happy, Healthy, You are interesting
- ・ペーパーズ
- ・スライドショー
- ・二人羽織
- ・ぬいぐるみ

第四日：フィードバック

- ・アルカトラズ刑務所からの脱走
- ・人生最初の記憶
- ・リード&フォロー
- ・What comes next
- ・イルカの調教
- ・ドラマとCM
- ・1 分間昔話

(3) インプロを用いた授業の評価

受講生は毎回の授業後に振り返りレポートを提出し、最終日には振り返り質問紙へ回答した。

授業の出席率は 91%、振り返りレポートの提出率は 84%、振り返り質問紙の提出率は 92%であった。5 段階 Likert scale での評価では、「授業は楽しかった」(平均 4.9)、「インプロという形式は自分にとって新しいものであった」(4.6)、「この授業に満足した」(5.0)であり、受講生は新鮮な印象の授業を楽しみ、満足したことがうかがわれた。この授業は以下の要素を高めるのに役立つ(4以上)と回答した受講生は、「コミュニケーション力」(100%)、「共感力」(100%)、「ウェルビーイング」(82%)、「チームビルディング力」(82%)、「リーダーシップ力」(91%)であった。

(4) 教員向けインプロワークショップの開催

2023 年 8 月には、日本医学教育学会大会でワークショップ「インプロ(即興演劇)を体験しよう」を開催し、医学系教員を中心に 15 人の参加があり、好評を得た。2024 年の同学会でも第二弾を開催することが決まっている。

(5) 今後の発展可能性

今後は、医学生に限らず、他の医療系学生(薬学生、看護学生等)を対象として、あるいは多職種連携教育の一環として、インプロを用いた授業の実施を計画している。医療系学生の専攻に

よって、学生の学びの内容がどのように異なるのかを調査する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 岡崎研太郎	4. 巻 53
2. 論文標題 インプロ（即興演劇）を用いた医学教育	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 388～392
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Abe Michiko, Gyo Ren, Shibata Junro, Okazaki Kentaro, Inoue Rumiko, Oishi Tatsuki, Inoue Machiko	4. 巻 19
2. 論文標題 Intergenerational Theater Workshops as Unique Recreational Activities among Older Adults in Japanese Care Facilities: A Qualitatively Driven Mixed-Methods Multiple-Case Study Design	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 11474～11474
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/ijerph191811474	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Okazaki Kentaro, Takahashi Noriyuki, Shingaki Tomotaka, Perez-Nieves Magaly, Stuckey Heather	4. 巻 16
2. 論文標題 Key factors for overcoming psychological insulin resistance: A qualitative study in Japanese people with type 2 diabetes	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Primary Care Diabetes	6. 最初と最後の頁 411～416
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.pcd.2022.02.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 鈴木渉太、岡田浩、蓮行、末長英里子、大山溪花、岡崎研太郎	4. 巻 -
2. 論文標題 糖尿病遠隔診療・服薬指導スキル向上のためのオンライン研修会を開催して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本プライマリ・ケア連合学会誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 野田 幸裕、末松 三奈、高橋 徳幸、岡崎 研太郎、淵田 英津子、阿部 恵子、半谷 眞七子、吉見 陽、葛谷 雅文	4. 巻 5
2. 論文標題 コロナ禍において実施したオンラインでの模擬患者家族参加型多職種連携教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 薬学教育	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24489/jjphe.2021-027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suematsu Mina, Okumura Kenichi, Hida Takeshi, Takahashi Noriyuki, Okazaki Kentaro, Fuchita Etsuko, Abe Keiko, Kamei Hiroyuki, Hanya Manako	4. 巻 12
2. 論文標題 Students' perception of a hybrid interprofessional education course in a clinical diabetes setting: a qualitative study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Medical Education	6. 最初と最後の頁 195 ~ 204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5116/ijme.6165.59e0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suematsu Mina, Takahashi Noriyuki, Okazaki Kentaro, Fuchita Etsuko, Yoshimi Akira, Hanya Manako, Noda Yukihiro, Abe Keiko, Kuzuya Masafumi	4. 巻 12
2. 論文標題 A novel online interprofessional education with standardised family members in the COVID-19 period	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Medical Education	6. 最初と最後の頁 36 ~ 37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5116/ijme.6043.8be0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Snoek Frank J., Fisher Lawrence, Polonsky William H., Stuckey Heather, Hessler Danielle, Tang Tricia, Hermanns Norbert, Mundet Xavier, Silva Maria, Sturt Jackie, Okazaki Kentaro, Hadjiyianni Irene, Desai Urvi, Perez-Nieves Magaly	4. 巻 -
2. 論文標題 Overcoming psychological insulin resistance: A practical guide for healthcare professionals	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Primary Care Diabetes	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pcd.2021.03.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 岡崎 研太郎、高橋 徳幸、末松 三奈、葛谷 雅文	4. 巻 51
2. 論文標題 名古屋大学地域枠医学生向け「地域病院臨床実習」のオンライン実施計画 準備ワークショップのWebコンテンツ化を含めて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 290～291
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.3_290	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋 徳幸、末松 三奈、岡崎 研太郎、葛谷 雅文	4. 巻 51
2. 論文標題 名古屋大学地域枠医学生向け「地域医療セミナー」のWeb開催 新入生への配慮も含めたその意義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 272～273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.3_272	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 末松 三奈、若林 唯、高橋 徳幸、岡崎 研太郎、半谷 眞七子、淵田 英津子、阿部 恵子、鈴木 裕介、葛谷 雅文	4. 巻 22
2. 論文標題 認知症医療・介護における多職種連携に対する認識：日本とスコットランドの看護師の語りによる質的分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 67～71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蓮 行、藤川 信夫、岡崎 研太郎、堀 啓子、沖田 都	4. 巻 33
2. 論文標題 高齢者の社会参加を促す演劇ワークショッププログラムの開発と効果測定およびマニュアル化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪ガスグループ福祉財団調査・研究報告集	6. 最初と最後の頁 1～14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蓮 行、川島 裕子、平田 オリザ、田口 真奈、安藤 花恵、斎藤 有吾、芝木 邦也、松下 佳代	4. 巻 16
2. 論文標題 国立大学看護学教育分野に於ける「演劇的手法」の導入に関する実態調査と設計指針の提案	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 協同と教育	6. 最初と最後の頁 57～70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蓮 行、荒戸 寛樹、神谷 祐介、末長 英里子、堀 啓子、安岐 裕美、谷口 忠大	4. 巻 15
2. 論文標題 環境教育演劇ワークショップの社会的価値の定量的評価 - 「件の宣言～国際会議～」によるエネルギー消費削減効果に着目して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エネルギー環境教育研究	6. 最初と最後の頁 69～77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 岡崎研太郎、三澤美和、岡田浩、中山法子
2. 発表標題 「オンライン版『糖尿病劇場』」 in プライマリ・ケア連合学会 ～多職種連携物語編～」の実施報告
3. 学会等名 第13回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kentaro Okazaki, Miwa Misawa, Hiroshi Okada, Noriko Nakayama
2. 発表標題 Report on the experience of the online version of Diabetes Theatre
3. 学会等名 AMEE2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名	澁田英津子、岡崎研太郎、末松三奈、高橋徳幸、野田幸祐、吉見陽、内山靖、池松裕子、玉腰浩司、山口みほ、阿部恵子
2. 発表標題	模擬患者参加型多職種連携教育の“これまで”と“これから”
3. 学会等名	日本看護学教育学会第31回学術集会
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	岡崎研太郎
2. 発表標題	卒前教育におけるインプロとプレイフル・ラーニングの実践報告：非医療分野プロフェッショナルとの協働によるワークショップ
3. 学会等名	第53回日本医学教育学会大会（招待講演）
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	岡崎研太郎
2. 発表標題	医学教育におけるオンライン診療
3. 学会等名	第63回日本老年医学会学術集会（招待講演）
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	岡崎研太郎、三澤美和、中山法子、岡田浩、國枝加誉
2. 発表標題	糖尿病劇場 in PC連合学会 多職種連携物語編
3. 学会等名	第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年	2021年

1. 発表者名 岡崎研太郎、小谷和彦、三澤美和、岡田浩、中山法子、國枝加誉
2. 発表標題 オンライン版「糖尿病劇場」in PC連合学会～多職種連携物語編～の実施報告
3. 学会等名 第21回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上真智子、阿部路子、柴田惇朗、大石達起、井上ルミ子、岡崎研太郎、蓮行
2. 発表標題 高齢者施設における「多世代演劇ワークショップ」の効果と可能性 - 混合型ケーススタディによる2施設の検討 -
3. 学会等名 第63回日本老年社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡崎研太郎、森田巧、山本壽一、朝比奈崇介
2. 発表標題 オンラインライブパネルディスカッション「慢性疾患を抱えて生きる患者と共に生きる医療者の心構え」の実践報告
3. 学会等名 第64回日本糖尿病学会年次学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 園部友里恵
2. 発表標題 「インプロ教育」の実践及び研究動向
3. 学会等名 日本教育方法学会 第57回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡崎研太郎
2. 発表標題 あなたの好きな歌は何ですか？「世間話外来」を目指す糖尿病内科の診察室から
3. 学会等名 第7回日本糖尿病医療学学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 阿部路子、柴田惇朗、井上ルミ子、蓮行、岡崎研太郎、大石達起、西井桃子、井上真智子
2. 発表標題 高齢者施設における多世代演劇ワークショップ実践の効果～収斂的混合研究法デザインを用いた検討～
3. 学会等名 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柴田惇朗、阿部路子、井上ルミ子、蓮行、岡崎研太郎、大石達起、西井桃子、井上真智子
2. 発表標題 高齢者施設における多世代演劇ワークショップのファシリテーション技術：質的研究
3. 学会等名 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mina Suematsu, Noriyuki Takahashi, Kentaro Okazaki, Etsuko Fuchita, Wataru Ohashi, Keiko Abe, Masafumi Kuzuya
2. 発表標題 Challenge of implementation of a patient involvement IPE programme in fourth year medical students
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田聡、岡崎研太郎、末松三奈、高橋徳幸、葛谷雅文
2. 発表標題 医療者教育ワークショップ「糖尿病劇場」の医療者劇場スタッフに生じる学び - エンパワメントに向けて -
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐橋一輝、高橋徳幸、末松三奈、岡崎研太郎、葛谷雅文
2. 発表標題 外来実習に医療面接ピア・ロールプレイを融合した実習での、医師役学生への認知的不協和の影響：質的研究
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 三澤 美和、岡崎 研太郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 402
3. 書名 かゆいところに手が届く！まるわかり糖尿病塾	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	蓮 行 (Ren Gyo) (10591555)	京都大学・経営管理研究部・研究員 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	直井 玲子 (Naoi Reiko) (00734295)	東京学芸大学・教育学部・研究員 (12604)	
研究分担者	園部 友里恵 (Sonobe Yurie) (80755934)	三重大学・教育学部・准教授 (14101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関